

# 井吹台自治会連合会(兵庫県)



子どもたちが自ら身を守ることを覚えるための活動

## 小中学生による体験型防災・防犯活動

### 1 はじめに～神戸市西区井吹台について～

神戸市西区井吹台は、平成5年3月から一斉に入居が始まった新興住宅街であり、当初、丁別に乱立していた自治会を地域ぐるみで防犯等各種活動を有機的に行うため、井吹台連合自治会を結成し活動地域内における各種活動を推進するとともに、神戸市西区内の他の自治会とも積極的に連携して活動している。

特筆すべき活動としては、

- 全国でも類を見ない小中学生による体験型の防犯組織の結成
- 登下校時における児童の安全確保を目的とした見守り活動の推進
- テレクラ進出に対する阻止運動の旗頭としての活動
- 『門灯点灯・不法駐車ゼロ運動』の推進

などが挙げられる。

### 2 小中学生による体験型の防犯組織の結成

井吹台連合自治会は共働きの家庭が多く、日常的に子どもの安全を確保する力が不足していることから、子どもたちが自ら社会における『危険』を認知し、危険からの回避能力を身につけさせるため、全国でも類を見ない小中学生主体による体験型の防犯組織として、

- 中学生による『井吹台防犯防災ジュニアチーム』（平成14年9月結成）
- 小学生による『いぶきジュニアチーム』（平成18年9月結成）

を相次いで発足させ、入隊許可証の授与等により自主性を促すとともに、

神戸市営地下鉄西神南駅周辺におけるクリーン活動（2ヶ月に1回）

駅周辺における清掃活動、花壇の花の植え替え、啓発ビラの配布等の活動を継続的に実施している。

警察との合同パトロール・街頭キャンペーン等の実施(2ヶ月に1回)

歩車分離信号機の勉強会、危険箇所の抽出と具体的な対応策の体得、警察、保護者等との合同パトロールや鍵かけ運動を目的とした街頭キャンペーン等を実施している。

赤い羽根共同募金活動の実施

募金活動を通じて、相互扶助の精神を培っている。

などの活動を通して、『自分の身は自分で守る』という意識を醸成するとともに、地域の『安全で安心なまちづくり』に貢献している。

### 3 『門灯点灯・不法駐車ゼロ運動』の推進

『安全で安心なまちづくり』の一環として、地域の安全性を高める活動として、門灯の100%点灯、迷惑危険な違法駐車の一掃を目的として、昨年来、地域を挙げて取り組んでおり、かなりの成果を挙げている。

### 4 子どもを守る活動

登下校時の見守り活動

小学生の登下校時に街頭に立ち、児童に対するあいさつ運動を実施、青少年の健全育成に寄与するとともに、子どもの見守り活動を継続実施している。

青少年有害環境の排除活動

青少年に有害な環境排除活動として、テレクラ進出が目立った平成13年、西区内関係団体の先頭に立って神戸市西区内テレクラ3ない運動に参加、テレクラ進出反対運動を展開し、西区内への進出を阻止、地域の健全な環境づくりに尽力している。

### 5 広報、啓発活動

団体の活動を維持させる工夫として、各ジュニアチームにおいて、年度毎に新隊員を募集し「入隊証」を授与して編成する等の工夫を凝らしている。

小中学生による防犯・防災チームの活動を報告する「井吹台防災ジュニア通信」等広報紙を定期発行し、住民等に広く知られている。

団体の構成員を拡大させるために、積極的にテレビ、新聞等で活動内容を広報し、構成員の拡大に努めている。

## 井吹台自治会連合会（兵庫県）

司会 兵庫県からお越しいただきました井吹台自治会連合会の皆様をお願いします。

坂本 こんにちは。兵庫県神戸市から参りました井吹台自治連合会の坂本と申します。きょうはよろしくお願いいたします。

きょうは、私たちの町の小学生・中学生とともにつくる安全のまちづくりについてお話をさせていただきます。

## 神戸市西区井吹台について

兵庫県神戸市西区井吹台は、世帯数 9,263、人口 2 万 6,605 名のまだまだ発展途上の町です。その自治会のことを少しお話をさせていただきます。

年間 150 円の会費、マンションは年間 50 円の会費で運営をしております。2 カ月に 1 回の定例会、そしてあと議事録は 2 週間以内に皆様のもとに回覧を行います。それと、「加入のしおり」、東町、西町、北町、北町が今入居が始まったんですが、「加入のしおり」を配らせていただいております。例えばどういう自治会活動をしているのか。働いているあなた方にも加入をして、一緒にやっていただくことができる自治会ですということを、皆さんにきちんとわかりやすく訴えるという努力をしております。例えば緊急連絡網、それから回覧部数、掲示部数、すべて無駄がないように、4 月の時点で 1 年ごとに提出をさせていただきます。今はピラの緊急回覧も 2 時間以内に配布をし終わるようになりました。

そしてまた、「加入のしおり」に関しては、神戸市の広報を月 1 回配ります。そのときに 20 軒に 1 人くらいの自治会役員がおりますが、その方に、ここは 1 人暮らしの家だなということで、シャッターが閉まっていないか、郵便物がたまっていないかという確認をさせていただきます。マンションも同様です。

それと、年間に 1 回なんですけど、町を挙げての清掃活動を行います。これは例えばこの自治会はこの右側の道路を受け持ちましょう、向こうの自治会はこちら側の筋を持ってください、これが大きく安心と安全につながります。例えば子供がいなくなった、お年寄りが行方不明になった、私たちの住む町の中はすべて自治会で、側溝、そして植え込みの間をすべて見ることができます。あとは、周りは警察の方々をお願いしますというふうに、小さなことも日ごろから積み重ねというふうに考えています。

また、パトロールも夜は月 2 回行います。1 回に約 30 名から 40 名くらいのお父さんやお母さん方が集まってこられます。また、下校時、登校時、そういうパトロールは、それぞれ警察機関である青少年補導、ふれあい交番、青少協等が役割分担を行います。決して、それぞれの負担にならないよというということで、青色パトロールも週 1 回行っておりますが、地図上に何かあった場所はすべて落としていきます。次の週にそれがどう解決できたのだということをきちんとつけていきます。不法にとまっている車に関しては、番号であれ、車体であれ、写らせていただいて、それを残していくよう




に努力を行っています。

私たちの町は大変若い町です。北町はこの間まで3丁目に高齢者0%というところがありました。こういうふうに、小学生、中学生が大変多い町です。中学校が1校、小学校が2校あるんですが、生徒数は1,022名。神戸市一の中学校です。東小学校は1,067名、井吹西小学校は生徒数1,409名、近畿一の小学校を抱えています。

ちなみに2年前ですかね、双子の子供さんが年間5組生まれました。今年はニュータウンですので、うわさが流れていて、幼稚園、保育園に入れない、どうしようってということで、今、少しお母さん方がパニックという状態になっています。こういうふうに大変子供が多い町です。

活動の経緯を少しお話をさせていただきます。

<h2>活動の経緯</h2>	
<p><b>平成5年 まちびらき</b> → 人のつながりの不足、地域団体が未結成、リーダー不在</p> <p><b>平成7年 阪神・淡路大震災発生</b> <b>平成9年～ 復興住宅群の建設・入居開始、被災者支援活動の活発化</b></p> <p><b>平成11年～ 地域交流・福祉活動など、総合的な活動へ発展</b></p> <p><b>平成13年～ 毒グモ対策、テレクラ出店阻止</b> → 住民の結びつき強化、地域安全意識の高まり</p>	



平成5年に神戸市最後のニュータウンということで町開きが行われました。どこのニュータウンにもあるように、地域団体未結成、リーダーがないという中で阪神・淡路大震災が平成7年に起きました。たくさんの物と大切な命を失いました。あの日の朝のことは私はまだはっきりと覚えています。底から突き上げるような揺れ、主人の言葉で「玄関をあける」と言われました。シャッターをきれいに閉めていますので、思わず気がつくまで玄関に立っていました。ふとんを頭からかぶって、目の前に入った光景は、電柱がブランコのように揺れていました。その目の前をかわらが飛び交いました。本当に怖かったです。今もまだあることをしないと夜眠れません。やかに水をいっぱいにとって、くみ置きをしないとまだ安心して眠ることができません。本当に震災の影響がまだまだ私たちの心の中には10何年たっても残っています。

そして、私たちの町にはたくさんの仮設が建ちました。子供を亡くした、そして家族を亡くした、家をなくした方々がたくさんかわってこられました。仮設の中でもいろんな出来事がありました。「今日は朝から4回も人が訪ねてくるんや。一体何や、うるさいな」というふうに怒られました。保健師もボランティアも、そして地域の団体も全く連携をとらずに、ピンポン、ピンポン、毎日訪ねていけば、それはうるさいということになります。「あと2週間も3週間もだれも来ない」と言われました。そのとおりだと思いました。

そして、復興住宅が1,400戸、歩いて5分のところに建ちました。私たちまちづくりはまだ完全にできていない中に復興住宅が建って、どうしていいのかわかりませんでした。その中で行政、そして当事者である復興住宅の人たち、そして地域団体の私たちが話し合いを重ね、地域見守り活動をつ



くりました。今、何をすべきなのか、これをしていいのか、被災をされた方々に本当に必要なのかを問いながら活動を作っていました。現在もその活動はずっと続いています。やはり必要かどうかを尋ねて、きちんとそれを必要と認めた活動は、やはり後々まで残るものだというふうに思っています。

また、地域の中では福祉、交流、いろんな活動が展開されました。その中には今、民生委員が地域のケアマネの役目を果たし、家事援助サービスを行っています。例えば自分が回ったときに、今日はどうされました。退院をしてきて今体が弱いんですね。わかりました。1時間500円の家事援助サービスがあります。元気になれるまでこれを利用されたいかがでしょう。1日でも長く地域の中に住んでいただく、これも安全・安心です。介護保険を使わずに最後までピンピンころりを目指して、地域の中でともども頑張りたいというのが私たちの町の願いです。

そして、障害者の方がたくさんかわってこられました。神戸の中で端から端までバリアフリーで電動車いすが行き交う町は、私たちの町、特に新聞やテレビによく書かれました。乳母車や電動車いすが行き交う町、そのとおりです。でも、それはお年寄りも障害者もすべてが住みやすい町ということです。

ところが、障害を持った子供さんたちも住んでおられます。お母さん、あるときこう言われました。「私は子供を連れて一緒に死にたい。私の子供は見かけは普通です。だから、あなたのしつけが悪いと電車の中でもどこでもしかられます。学校でもそう言われます」。

今は「発達障害」という言葉をよく聞きます。そのお母さんは本当に悩まれました。そのとき私たちに何ができる。お医者さんでもなければ看護師でもありません。私たちはそのお母さんにそっと寄り添うことしかできません。それで今は月4回、ポールバランスであったり、動作法であったり、子供たちがゆっくりと机に向かうことができるような算数教室であったり、母親教室であったり、週1回の活動を行っています。それを6年後認めていただいて、今年11月に市長賞をいただくことになりました。本当に6年間、まだ発達障害が世間で知られてない中で頑張ってきてよかったというふうに思っています。

こういうふうに、私たちは町を通して、須磨の淳君の事件、そして毒グモ、それからテレクラの店舗、北町の進出、いろんな問題を抱えました。その中で一つ一つをみんなで一緒になって解決してきました。それが今ニュータウンの私たちの力となっています。

仮設住宅の中では役割分担を学びました。ボランティアは「こんにちは。お元気ですか」と声かけをしてください。そして、民生委員は「一歩進んで」どうされました」という声かけをしましょう。「保健師は本当に困られたときに出番ですよ」というふうに呼びかけました。

そして、テレクラ、ドライブスルー型テレクラが私たちの町に進出ということになりました。繁華街ならわかりますが、住宅街に私たちの、まして小学校の真下ということ、私たちは10日間で3万を超える署名を集めました。2万1,000しかない町に3万を超える署名が集まったのです。10日間というのは大変なことでした。そして、よくテレビで反対運動を見かけますが、右肩の上に自分の名前を書いて反対ということの怖さ、つらさ、本当に学びましたが、これもみんなと一緒に乗り越えることができます。みんなで頑張れば条例すらも変るということを私たちの町は学びました。

また、北町が建設。東町、西町に続いて新しく北町の建設です。また、新たに私たちはもう一つの町を今つくろうとしています。でも、私たち自身もニュータウン、山を切り開いて入ってきました。それですので、よりよいまちづくりを目指そう。行政と一緒にあって、反対運動をするのではなくて、

よりよい町をつくっていこうというふうに私たち自身が問題を考えました。

そして、毒グモの大量発生なんです、これは仮設の建築機材について入ってきました。そして、それが成長して、公園で大量発生というふうに行政から言われました。そのときにインターネットを引くと、セアカゴケグモ、大変赤いきれいなクモなんです、これが大量発生しています。いつどうなって、このクモはどののだということ、2時間以内に配布を終えることができました。すると、保健所への通報はたっ

た2件ということでした。6時のニュースですべて一斉に「内陸部最大規模の毒グモ発生」ということを流されてしまいましたが、ちゃんとした情報があれば、町は決してパニックにはなりません。

こういうことを踏まえた上で、私たちは今、井吹台安全・安心ネットワークづくりを進めています。学校関係者、地域の諸団体、ハイテク工業会、タクシー協会、新聞販売所が一緒になって、それぞれが、例えば学校が3時になれば、先生が20名、車10台出せますよ。それぞれができることをきちんと書類上提出していただきます。その上でお互いに助け合って、緊急事態への対応、例えば昼いなき方を連絡網と書いていただくのは困ります。行ったときにお留守で、夜にならないと帰らないような方を名簿の上に載せられるのは、地域としての力の低下ということになりますので、そういうことは一切にないというふうに考えています。

井吹台では、平成18年度重点目標を掲げました。

「指一本でできるボランティア」、自治会員でなくてもすべての人が地域の中にまちづくりに協力できますということで、「門灯の点灯100%、路上駐車ゼロ」。これも丁寧に皆さんに説明をしました。門灯がなぜ必要なのか。例えば門灯が消えていると、ある自治会長は「電気の球が消えていますよ」とチラシを入れていただきました。「あんたつけてないやん」と言うたらけんかになりますけれども、電気の球消えていますよという、そういう一人一人の意識が高まってきました。

そして、不法駐車に関しても、「うちの息子が帰ってます。今日は家の前にとめます。ごめんなさい」。たった一言書いていただいたら、不審車両ではありません。そういうふうに一人一人の努力が町をつくります。その結果、神戸市がこの18年度末に70基の街灯をつけていただきました。何もしないのに、下さいとは言いません。私たちの町は一生懸命努力をします。その上でここが暗いので街灯を下さいというお願いを神戸市に行いました。

そういうふうに自立したまちづくりを目指したい。ただ欲しいと言うのはやめよう。そしたら、中学生がこう言いました。「部活の帰りに不審車両がいなくて、町が明るくて、本当に安心して帰れるようになりました」と言ってくれました。涙が出るほどうれしかったです。

18年度末には自治会長たちと一緒に9時から3回、門灯の点灯率の検証を行いました。点灯率91.7%を誇ります。これは12月ですので、クリスマスイルミネーションをつけているお家があって、大変、12月にするとは何事だとしかられたんですが、本当にこれからも続けていきたいというふうに思っています。

## 新たなまちの課題への対応

～地域の安全・安心の確保に向けて～

### 多彩な取組

- ・ 防犯パトロールの実施
- ・ 門灯点灯運動の展開
- ・ 違法路上駐車禁止運動の展開
- ・ 井吹台防災ジュニアチーム(中学生)の発足





### 小中学生による体験型の防犯組織の結成

また、15年たつと新たないろんな課題が出ます。防犯パトロール、門灯点灯、路上駐車、いろんなことをやったとしても、それでは追いつきません。私たちの町はニュータウンですので、昼間働き手がまずいません。その中で中学生は1,000人もいないかということで、中学生にもあの震災を味わった、神戸だから、中学生にも助けてもらおうということで、「井吹台防災ジュニアチーム」をつくりました。これは今、学校にも担当の先生を置いていただいています。本当に学校と地域と子供たちと一緒に安全のまちづくりを作っています。

その中である子供がこう言いました。年間10回ぐらいの活動をするんですけども、防災訓練に参加したり、隣の自治会の交流会に参加してくれたり、共同募金をしたり、共同募金のときもきちんと子供たちに何に使われ、これがどうなるのかを説明します。そしたら、ある子はこう言いました。「勉強少し苦手やけど、きょうは楽しかった」。そして、その子は、協力していただいた方の後ろ姿に向かって、「ご協力ありがとうございました」と大きな声であいさつをしていました。決して教科書では学ばない、地域の私たちが学ぶことがたくさんあるのではないかと。そして、それをもとに子供たちが育っているのではないかと考えます。

また、櫛谷川祭りという地域の交流、隣の町との交流に参加した子が、こんな作文をくれました。

「私たち防災ジュニアは、櫛谷川祭りにボランティアで行きました。私たちが出す店は、くじ引き、当て物ゲームなど、バスに乗って目的地へ着くと、早速みんなで準備を始めました。品物を並べる人、案内を書いたり、グッズをつくったりする人、ふとテントの外を見ると、もう人が来ていて、みんなもやる気がわいてきます。途中で何人かで近くの畑へ芋掘りに行きました。どっさりってテントに帰ると、残っていた人たちは既に店の仕事を始めていました。

おっと私も仕事をしなきゃと大張り切りで店の前に立ちました。前より人がふえて、にぎやかです。「へい、いらっしゃい、いらっしゃい」、思わず大声で言ってしまいました。とっても気持ちがいいので、つい調子に乗って次から次へと言葉が口から出ます。「はい、寄ってらっしゃい、見てらっしゃい。楽しいくじ引き1回100円。女の子はかわいい景品が、男の子には格好いい景品がありますよ。何が中に入っているかお楽しみ。カラフル卵1個100円。」


努力が実り、客が入り、とっともよくなってきました。頑張れば頑張るだけ結果が出る仕事はやっぱりうれしくて、楽しくて、祭りのプログラムに参加しながら仕事をして、気づけばもう帰る時間になっていました。店を見てみれば、品物もほとんど売り切れて、とっともうれしかったです。お土産にどっさりサツマイモをもらって、疲れたけれども、とっとも満足した表情でみんな帰りのバスに乗りました。また、こんな仕事をしたいです」というふうに書いてくれました。

この活動をしながら気づいたことがあります。6年、ジュニア防災が立ちます。すると、子供が子供を指導するというか、子供たちに、3年生が1年に向かって「こうしたらいいんや。このときはこうやるんやで」と指導しています。本当に子供ってすばらしいです。本当にその子供たちとこれからも一緒になって町で活動しながら、子供の成長を見守りたいというふうに思っています。

また、小学生の「いぶきジュニアチーム」の結成が去年行われました。子供を守りたいと思ってもニュータウンには守る大人の数が少なく、なかなかしてあげることができません。ただ、子供を守るということは、してあげたり、買ってあげたり、やってあげたりすることなのでしょうか。決してそうではなくて、子供たち自身に体験させて、感じさせることではないかというふうに考えています。

これは私たちの町自身が力がないからかもわかりませんが、子供とともに地域の中で一緒に安心・安全をつくって、一緒に生きていきたいというふうに考えています。小学生ジュニアチームの入隊式、西警察から署長に来ていただいて入隊許可証の授与式を行いました。大きな声で「頑張ります」と子供たちは誓ってくれました。その声に私たちはまた勇気づけられます。

**小学生ジュニアチーム入隊式**  
 (平成18年9月16日)  
 於：井吹東小学校、井吹西小学校



**入隊許可証  
隊員証**

神戸西警察署長等から入隊許可証授与

**これからのまちづくりに大切なこと**

1. 地域団体の役割分担	⇒ 行政+住民=協働参画
2. 共感の仲間づくり	⇒ 活動、事業を通して「わが町」に愛着をもつ
3. 街づくりは、一步一步前進し	⇒ 日々の努力続けることである
4. 必要なことだけを活動とする	⇒ 押しつけるのではなく、当事者・協力がそれぞれ話し合いで事業をつくる

小学生ジュニアチーム   中学生 防災ジュニアチーム   地域スポーツクラブ  
 地域福祉センター   地元の大学  
 NPO法人   保護者会  
 小学校   自治会連合会   老人会

**地域力は協合力だ!**



## 井吹台自治連合会 平成19年度 重点目標

### ルールとマナー大人が守れば子供も守る

- |                |                             |
|----------------|-----------------------------|
| ①ポイ捨てをやめよう！    | 「ゴミやたばこをポイ捨てしている」           |
| ②信号を守ろう！       | 「赤信号なのにわたる人がいる」             |
| ③不法駐車・駐輪をなくそう！ | 「バイクや自転車を駅前に停めている」          |
| ④ルールとマナーを守ろう！  | 「歩きながらたばこを吸う」<br>「道に広がって邪魔」 |
| ⑤あいさつをしよう！     | 「あいさつをしてもしてくれない大人がいる」       |



そして、活動も駅前での安全活動、そして地域の中に歩車分離信号ができると、実際に子供たちとともに渡ってみて、活動した上で体験させて覚えさせます。安全だという確認を子供たち自身が体で覚えていきます。こういうことも地域の中ではきちんと皆さんにお知らせし、全戸配布をして、協力を得、理解を得られるように、広報紙もつくり、全戸配布を行いました。

また、この子供たちから生まれた19年度の重点目標、「ルールとマナー、大人が守れば子供も守る」ということで、私たちの背中を子供たちにしっかり見せて、このポイ捨て、赤信号で渡る、不法駐車、ルールとマナー、あいさつ、しっかり子供に私たち井吹台で見せていきたいと考えています。これをこの19年度の重点目標にしています。

また、西警察からは、平成18年度5月末、井吹台は、犯罪率が4.0、19年度は残念ながら少し上がって4.75となってしまいました。でも、こういう活動を通してこれからもこの数字を守っていきたい。決して大きなことはできませんが、一つ一つ地域団体の役割をしっかり守って、そして「そうだね」と言える仲間をつくって、そして大きな花火を上げずに一歩ずつ毎日日々努力して、必要なことだけを自治会は自治会の、民生は民生の、ボランティアはボランティアの仕事しながら、それぞれが必ず仲良く連携することが地域の大きな力となります。決して、私たちのようなニュータウンでもやればできます。それはみんなが仲良く力を合わせ、連携をとることです。私ガね、我がねとは言いません。この町にとって今必要なことを考え、活動しています。地域力は総合力というふうを考えています。

### まちづくりのポイント

まちづくりを進めるポイントとして、自治会員でなくても、年をとってもだれでもができる、共感できる活動を続けていきたい。また、自治会、老人会、民生委員、保護者会、それぞれ学校、いろんな団体がより集まることで小さな力も大きな力となり、問題を解決する、できることを私たちは学びました。そして、町の中にはごみがなく、また花が植えてあったり、そうすると安心・安全きれいな町、美しい町というふうに感じます。地域の中には防犯、防災、福祉、環境などいろんな問題が山積みとなっています。それらすべてができるとは思いませんが、総合力と思って、みんなで力を合わせながら子供たちとまたまちづくりを進めていきたいというふうに考えています。

以上、井吹台から安心・安全のまちづくりについてお話をさせていただきました。ありがとうございました。

司会 どうもありがとうございました。

子供の体験型のこういうパトロール隊というか、それは他にはあまりないので、今後全国に広がっていったらなと思います。どうもありがとうございました。

それでは、最後になりましたが、熊本県からお越しいただきましたオバパト隊の皆様をお願いいたします。